

最先端の技術と医療とあなたを結ぶ

VOL. 22

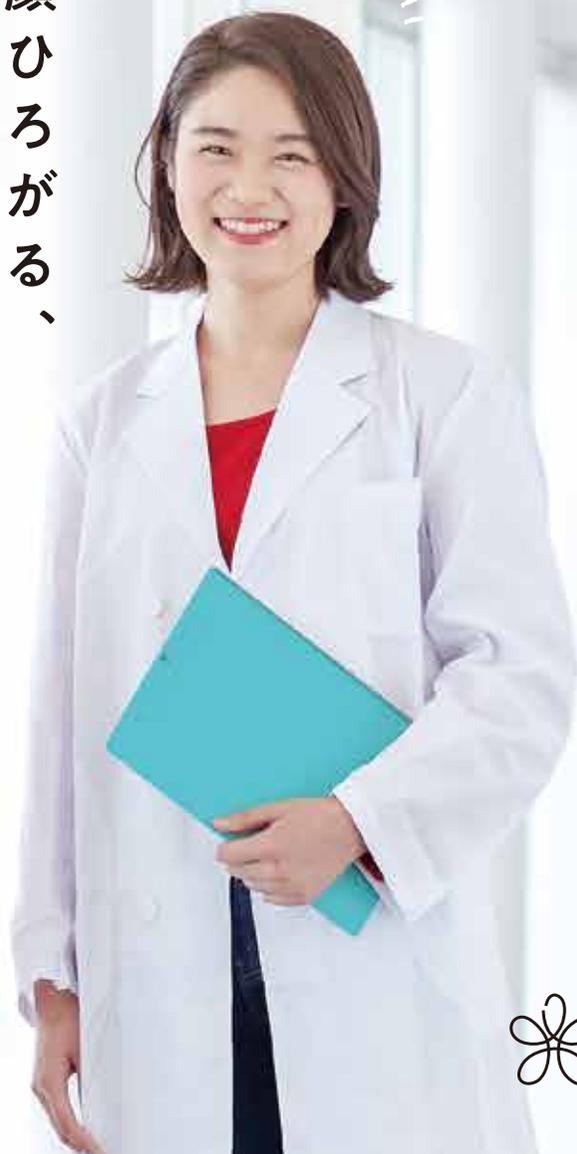
Summer
Autumn

PUBLICITY PAPERS

近畿大学病院
Kindai University Hospital

きずな

笑顔ひろがる、
新しい時代へ



MOVING TO IZUMIGAOKA



2023年、医学部と病院が 「泉ヶ丘」で生まれ変わります。

高度医療を提供する病院×未来の医療人を育てる医学部が中心となり、泉ヶ丘駅前地域活性化ビジョンで計画されている「教育・^{けんこう}健幸」のまちづくりに寄り添った、「地域に開かれた新しいキャンパス」を創り、地域に貢献いたします。

新名称

「近畿大学病院」としての
新たなスタート。

あらゆる病と向き合う患者さまを
高度医療とチームで支えます。

1975年の開院以来、安全で質の高い
高度医療を提供すると共に、教育病院とし
て、医療者を育成すべく努力を重ねてまいり
ました。

この度、40周年の節目を経て開院44年目を
迎える運びとなりました。

病院長

東田 有智
(とうだ・ゆうぢ)

これもひとえに、皆様からの温かいご支
援とご協力のおかげと深く感謝いたします。

当院は、2019年4月1日を持ちまし
て、近畿大学病院へと名称変更を行い、装
いに再出発いたしました。

この度の名称変更は、学校法人近畿大学が
運営する病院において「医学部」と「病院」
の境界を明らかにし、病院長を責任者とした
病院組織において、さらなるガバナンスの強
化を図るものです。

南大阪エリア唯一の大学病院として、地域
における医療機関との相互の連携を図るた
め、連携推進に力を入れ、地域医療のさらな
る発展に貢献したいと考えています。

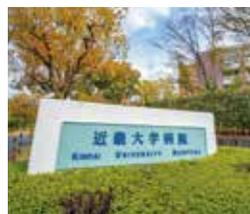
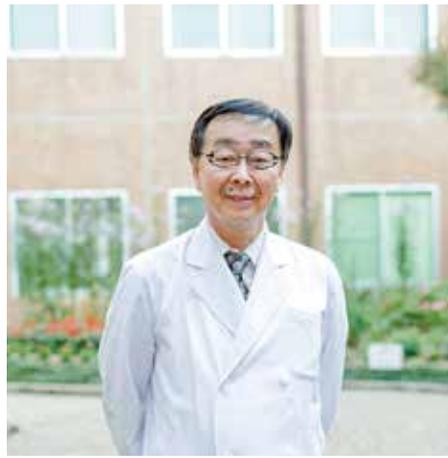
また、2023年には医学部と共に堺市
泉ヶ丘地区に移転する予定となっておりま
す。がんセンター、脳卒中センター、心臓血
管センターなどの最新機能を兼ね備えた構想
が計画されています。移転により医療サービ
スの質向上はもちろん、今よりもさらに患者
さまに近い病院を目指したいと考えています。

理念

患者本位の開かれた病院と
して、安全で質の高い先進
医療を提供します。

基本方針

- ◎教育病院として、人に愛され、
信頼され、尊敬される医療人を
育成します。
- ◎特定機能病院として、医学
医療の進歩に関与し、社会に
貢献します。
- ◎南大阪における基幹病院
および救急災害拠点として
地域医療に貢献します。
- ◎働きがいのある病院として、
チーム医療と環境整備に
努力します。



最新の病院情報とあなたを結ぶ広報誌きずなは、みなさんとのつながりを大切に、この度誌面をリニューアルして新しくなりました。

CONTENTS 表紙：病院長 東田有智・近畿大学医学部 三年 山下正奈さん

- | | | |
|---------------------|-----------------------|---------------------------|
| 01 病院長メッセージ/理念/基本方針 | 07 研究紹介 | 13 患者支援センターからのお知らせ |
| 02 今、気になる病 | 08 KINDAI NOW | 14 つなぐ/卒業生の今 |
| 04 [特集1] 外科 | 10 こんにちは薬剤部です | 15 イベントスケジュール/メディカルアンティーク |
| 05 [特集2] 心臓血管外科 | 11 おいしい栄養食レシピ | 16 各相談窓口のご紹介 |
| 06 [特集3] 放射線治療科 | 12 Message from NURSE | 17 近畿大学医学部・病院開設50周年記念事業募金 |

「白血病」は不治の病ではありません。 薬や移植の進歩で治癒も可能です。

競泳選手の池江璃花子さんやシンガー・ソングライターの岡村孝子さんも現在闘っている白血病。難病のイメージが強いですが、この度、新薬「キムリア®」が保険適用になるなど、治療に希望の光が差し込んでいます。白血病の特徴や治療法について近畿大学医学部の松村到学部長に聞きました。

白血病のタイプは4つ。 小児が発症することも

白血病は血液のがんです。血をつくる基となる造血幹細胞に染色体や遺伝子異常が起るこことによって発症します。病気のタイプには急性と慢性があり、細胞の性質によつて、急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、慢性骨髄性白血病、慢性リンパ性白血病の4つに分けられます。白血病は一般的に高齢者によく見られる病気ですが、急性リンパ性白血病は小児も発症します。慢性リンパ性白血病は欧米人に多くみられ、日本人の発症率はごくわずか。急性骨

髄性白血病と急性リンパ性白血病は治療が順調に進んだ場合の生存率が50〜60%で、一旦落ち着いても再発する可能性があります。一方、3〜4歳までの小児の急性リンパ性白血病は治療後の経過が極めて良好です。また、慢性白血病も治療の見通しが良いのが特徴です。

慢性と急性では 治療法も予後も大きく違う

現時点において、白血病の発症原因はほぼ不明とされています。けれども、ここ10年ほどの間で長期のがん治療により発症す

る二次性白血病が増えました。抗がん剤治療や放射線治療により造血幹細胞が傷つけられることが原因です。

慢性白血病は自覚症状がほとんどなく、極めてゆっくりと進行します。特に慢性骨髄性白血病は薬が進歩し、外来治療だけで治癒が目指せるほどコントロールが可能になってきました。

急性白血病は貧血による息切れや動悸、体のだるさや発熱、出血症状などを訴えて受診するケースが目立ちます。急激に病状が進行するため、発病後は一刻も早く抗がん剤治療で白血病細胞を減らす寛解導入療法（かんかいどうにゅうりょうほう）を開始する必要があります。寛解導入療法を終わった後も体内にはかなりの白血病細胞が残り、再発の危険性があるので、さらに治療を続けて白血病細胞を完全に根絶しなければいけません。抗がん剤治療だけでは限界があるときは、造血幹細胞移植を選択することもあります。

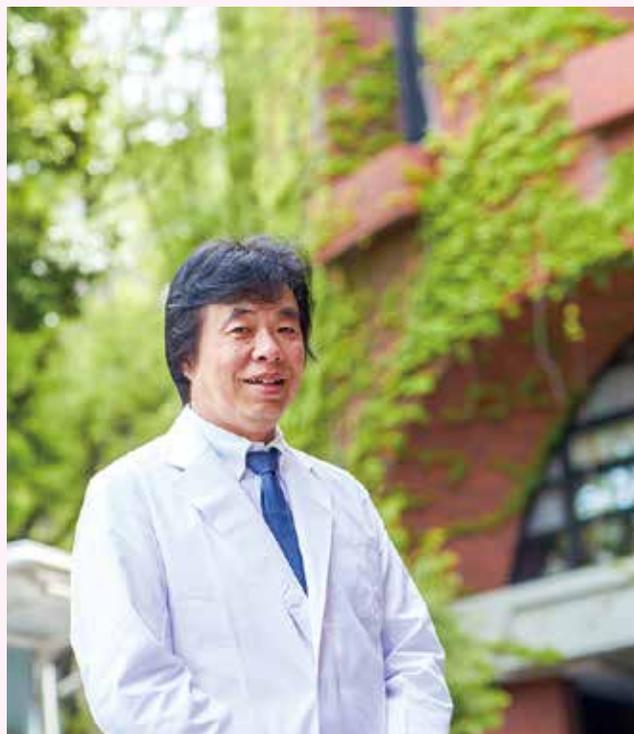
患者さまに応じた最新治療で 寛解を目指す

骨髄移植は造血幹細胞移植の一つで、白血球の型（HLA型）が同じ人から提供してもらった造血幹細胞を用いて行います。まずはHLA型が一致する可能性が高い血縁者から提供者（ドナー）を探します。親子間での場合はまれですが、兄弟姉

妹間での確率は4分の1。血縁者でドナーが見つからないときは、胎盤の血液を用いる臍帯血移植を選択するか、骨髄バンクのドナー登録者からHLA型が一致する人を探します。しかし、非血縁者でHLA型が一致する確率は数百〜数万分の1。残念ながらドナーが現れるのを待っている間に病状が悪化してしまうことも少なくありません。最近では免疫抑制剤が進歩していることから、緊急性が高いときや再々発時の最終手段として、HLA型が一部しか一致しなくても血縁者間で骨髄移植を行うこともあります。また近年は新薬の研究開発が目覚ましく、最近、保険適応となった「キムリア®」も白血病治療の可能性を広げると期待されています。

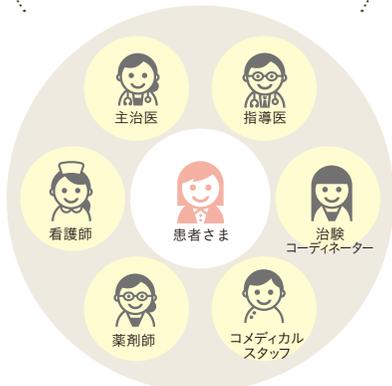
私たちは白血病の患者さまにとってベストな最新治療が行われるよう、万全な体制を整備。複数の専門医を含む医師とコメディカルスタッフでチームを組み、社会復帰までの道のりをしっかりとサポートしています。また、白血病の新薬の治験も積極的に実施。一般診療で可能な最先端治療に加えて、他院ではできない治験薬での治療にも取り組み、治癒を目指します。

白血病はさまざまな治療法が確立され、不治の病ではなくなりました。一人でも多くの患者さまが骨髄移植のチャンスに恵まれるよう、健康な人はぜひ骨髄バンクへのドナー登録をお願いします。



近畿大学病院スタッフによるサポート体制

患者さまにとってのベストな治療を
チーム一丸となってサポートします！



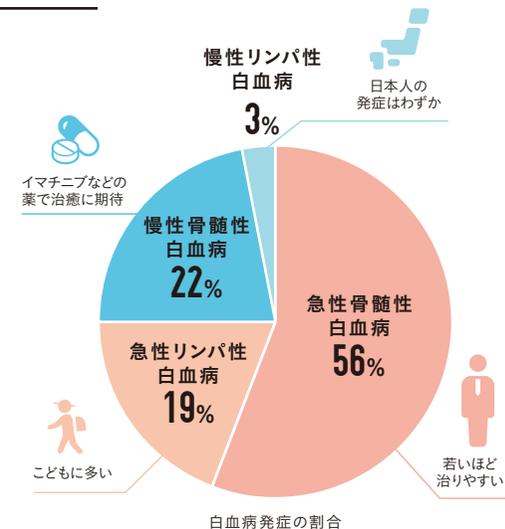
松村 到 医学部長 (まつむら・いたる)

白血病などの造血器腫瘍に対する分子標的薬や造血幹細胞移植が専門。正確な診断と科学的根拠に基づく治療を実践することをモットーに、日々の診療にあたっている。

白血病の分類と病態

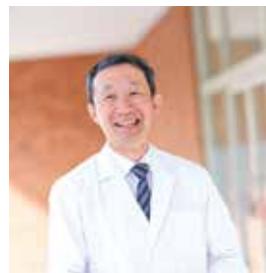
臨床経過 細胞の起源*	急性白血病	慢性白血病
骨髄性 白血病	type 1 急性骨髄性白血病 病気の進行が速く、すぐに治療を行うことが必要。治療後の生存率が50〜60%で年齢が若いほど寛解率は高い。	type 3 慢性骨髄性白血病 病気の進行が遅く、ゆっくりと進行する。「イマチニブ」などの分子標的治療薬により治癒が期待される。
リンパ性 白血病	type 2 急性リンパ性白血病 病気の進行が速く、すぐに治療を行うことが必要。小児の発症が多く、3〜4歳までの予後は極めて良好。	type 4 慢性リンパ性白血病 病気の進行が遅く、ゆっくりと進行する。日本人の発症は少ない。症状の改善を目的に化学療法や移植を行う。

*正常の骨髄系細胞は成熟すると赤血球、血小板あるいは細菌を殺す白血球となる。正常のリンパ系細胞は成熟するとウイルス、がん細胞を攻撃する。



特集 1

外科



川村純一郎 主任教授

(かわむら・じゅんいちろう)
京都大学大学院・医学研究科助教等を経て現職。専門は大腸がんに対する低侵襲手術と大腸がん転移に対する治療。「患者さまにメリットの大きい手術を実践すること」をモットーとする。幼いころから続けているスキーはプロ級の腕前。夏になると休日には息子と虫探りに出かけ、リフレッシュすることもある。

最新の医療用ロボットで
難易度の高い手術に挑む。



今や手術室では医療用ロボットが活躍する時代。近畿大学病院でも2016年より最新鋭の手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を導入し、さまざまな高度手術を行っています。ダ・ヴィンチは4本のアームを用い、遠隔操作での手術を可能にした医療用ロボット。腹部に小さく開けた孔から手術器具を挿入し、手術を行う医師が高画質な立体画像を見ながらアームを操ることで、患部へスムーズにアプローチすることができます。

ダ・ヴィンチを用いた大腸がんの手術に取り組む川村純一郎教授は、そのメリットを次のように話します。「アームの先端にある多関節は、人の手では叶わない精密で器用な動きができます。どんなに繊細な操作も手ぶれがなく安全に行うことができます。そのため、手術後の身体機能の温存やがん根治の可能性がより高く

なりました。また、傷口が小さく手術中の出血量が少ないのも大きな利点。患者さまの身体への負担が軽減され、早期の社会復帰も望めます。

一方で、機械ゆえの弱点もあります。自立して動けないため、適切な操作は外科医の優れた腕が頼り。安全を確保するためには、看護師や医療機器を扱う技師などを交えたチームでの関わりも欠かせません。そのため当院では、的確な手技を持つ術者の育成にも注力。今後は大腸がんに対応できる優秀な術者を増やし、より多くの患者さまを救う体制を整えていく予定です。また、引き続きチームワークも高め、術中の安全に努めていきます。

医療用ロボットの研究開発は国内外で急速に進んでおり、近い将来、各患者さまの病状に適したロボットを選べるようになる。話す川村教授。「当院ではロボット手術のほかにも大腸がんの最新手術である経肛門的内視鏡下手術にも取り組み、患者さまがよりご自分に合った手術方法を選択できるのが強み。腫瘍内科や消化器内科など他科とも緊密に連携しながら、大腸がんの根治を目指していきます」。

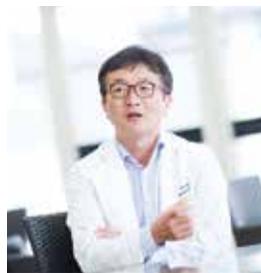
メイン写真：ダ・ヴィンチを使用した手術の様子



冬は滋賀県のスキー場に通ってます。子どもたちも箱館山へ！

特集 2

心臓血管外科



坂口元一 主任教授

(さかぐち・げんいち) 1992年に京都大学医学部を卒業後、同附属病院等で研修。1998年から2年間オーストラリアオースチン医療センターに臨床留学。帰国後は倉敷中央病院、静岡県立総合病院、小倉記念病院を経て現職。トランスカトロンやヒルクライムレース、トレイルランに挑戦してきたアスリートな一面も持つ。

心臓血管外科では近年、手術の低侵襲化が進んでいます。病状や身体状態によってはTAVI（経カテーテル大動脈弁置換術）や大動脈ステントグラフト治療といった患者さまの体への負担が少ない治療を選択し、胸を開いて手術をしないケースも増えてきました。「低侵襲手術の中にはまだ長期の治療成績が明確に出ていないものもあり、すべての患者さまにとって有効とは言いきれません。循環器内科と心臓血管外科が連携し、病態を見極めディスカッションをして、その人にとって最善の治療方針を決定できるようにすることが私の役割だと思っています」。

そう力強く語るのには、今年4月に同主任教授に就任したばかりの坂口元一教授です。前職の小倉記念病院では心臓血管外科主任部長を務め、TAVIの症例実績で日本トップクラスを誇るハートチームをけん引。大動脈弁疾患などには胸腔鏡や

手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」による小切開心臓手術を行い、リスクの高い大動脈手術にも積極的に取り組むなど、現場の最前線に立ち続け、道を切り開いてきました。幅広い経験と知識のもとに培われた唯一無二の技術力が、近畿大学病院でも発揮されることに期待が高まっています。

坂口教授がまず注力したいのはチームビルド。「チームで成果を出すことにこだわるのは、大学時代に所属していたスキー部の影響かもしれません。パリバリの体育会系で、良いタイムを残そうとみんなで切磋琢磨していました。今は心臓手術も標準化され、一人の術者の手技に委ねる時代ではなくなりました。術後の管理も含めてチームでどれだけサポートし、いかに安全にやっつけていくかです。その力を握るのは第一にチーム教育。将来有望な若手術者が数多く育つ環境を整備することも急務だと言えます。「小倉記念病院で実践したハートチームを近畿大学病院でも作り上げ、関西No.1と言われるクオリティの高い手術を行っていきます」。

メイン写真：心臓手術の様子

現在もトレイルランを継続。でもトレーニングする時間がなかなか...



特集 3

放射線治療科



西日本初！新型リニアックの導入でより精度の高い放射線治療を実現



日本のがん患者数は年々増え、2人に1人がかかる病気と言われるようになりまし。若い人の罹患率も高まり、子どもから高齢者までがそのリスクを抱えています。当院でもがん患者は増加傾向にあります。治療技術は日々進歩し、がんは治る時代になりました。

手術、化学療法と並ぶがんの三大治療のひとつが放射線治療です。放射線治療は、治療そのものには苦痛がなく、身体機能を温存でき、身体的負担が少ないことや外来通院での治療も可能なことから、多くの患者さまに適応されるようになってきています。

当科では、患者さまの身体に優しいがん治療を推進するため、高精度の放射線治療装置であるVarian社製リニアック「Halcyon（ハルシオン）」を西日本で初めて導入しました。リニアックは治療台の上に患者さまが寝た状態で、高エネルギーのX線や電子線を多方向から正確に病巣へ照射する装置。正常な細胞へのダメージを極力減らし、効率よくがん細胞を死滅させることができます。新型機器では性能がよりパワーアップしました。

最大の特徴は、治療時間がかかり短縮されたこと。一般的なりニアックのおよそ半分になり、照射時に息

を止める必要もなくなるなど、患者さまへの負担が大幅に軽減されています。形状はCTとよく似たドーナツ型。表に出ている可動部分が少ないため、機械と患者さまの身体が衝突する危険性も低くなりました。

また、照射部の口径が大きく、圧迫感のないデザインでスマートな印象。静音性も高く、リラククスして治療を受けることができます。さらに、新世代の2段式マルチリーフコリメーターを搭載し、患者さまごとに質の高い治療計画の立案が可能。これまで以上に鮮明なCT画像を撮影し、病巣への的確な照射を実現します。

当院では前立腺がん、肺がん、頭頸部がん、膵臓がん、婦人科がんなどに積極的に新型リニアックを適応し、安全な高精度放射線治療を提供していきます。

メイン写真：放射線治療装置「Halcyon（ハルシオン）」



治療計画用CT画像



導入に際して一般向け内覧会を開催

研究紹介

糖尿病患者に朗報！

世界初、劇症化に関わる遺伝子を発見

近畿大学医学部内科学教室（内分泌・代謝・糖尿病内科部門）がチームリーダーとなり、日本糖尿病学会1型糖尿病委員会で行った共同研究で、糖尿病のなかでも非常に症状が重いとされる劇症1型糖尿病の発症に関わる第二の遺伝子を世界で初めて発見しました。

1型糖尿病は毎日インスリン注射を行わなければ命に危険が及ぶ病気です。なかでも劇症1型糖尿病は東アジアに多く見られ、発症するまでが1週間前後と非常に短期間なのが大きな特徴。治療の開始が遅れると病状が悪化し、死に至ることもあるため、早い診断が重要です。

そこで同主任教授の池上博司が主導した研究グループが、発症メカニズムの解明と予防・治療に役立てるための研究にオールジャパンで着手しました。国内18施設で実施し、発症に関

わる遺伝子を特定。その機能を解析し、今回の発見に至りました。研究成果は世界も注目。今後は劇症1型糖尿病に関わるさまざまな問題点を解決し、疾患の新たな予防法や治療法への応用が期待されています。



池上 博司 主任教授（いけがみ・ひろし）

糖尿病の成因を分子レベルで解明し、それに基づいた予防・治療・根治法の確立を目指した研究を進めています。病気の根本に関わる遺伝子を解明することは体質に応じた最適の医療、いわゆる「テーラーメイド医療」にもつながる重要な研究です。

「こう動きたい」をアシストするロボット HAL®の普及に取り組む



Prof. Sankai, University of Tsukuba / CYBERDYNE Inc.

身体機能を改善・補助・拡張・再生することができると言われるサイボーグ型ロボット「HAL®（Hybrid Assistive Limb®）」。

HAL®は人の意思に従った動きを実現することが可能です。装着者の脳の神経を通して筋肉に送り出された「こう動きたい」という信号を、身体に装着したセンサーでキャッチ。各関節に装備されたモーターなどが作動して大きな力を生み出し、動作をアシストします。HAL®により、動作意思と同期した運動を少ない負担で

繰り返し行いやすくなるだけでなく、動作に関する感覚情報が脳にもフィードバックされることにもなります。このループを繰り返し行うことによって、機能改善・機能再生が促進されます。

継続したHAL®治療により、神経難病の歩行障害の改善と、進行性の難病における疾患の進行を遅らせる効果があるといわれており、当院では、一部の指定難病に限定し、6月より開始しています。

2

アレルギーセンター紹介

センター構成員の特徴

当アレルギーセンターは、呼吸器・アレルギー内科、小児科、皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科の各アレルギー専門医と、看護師、薬剤師、栄養士、検査技師で構成され、特に看護師の中には全国に約400名しか認定されていない小児アレルギーエドクターが2名在籍しています。



アレルギーセンターのメンバー集合写真
(フリーアナウンサー唐橋さんをお招きして)

センターで行う検査と治療

当センターで実施可能な検査は、プリックテスト、皮内試験、パッチテスト、皮膚生検、気道可逆性検査、気道過敏性検査、呼気一酸化窒素測定、アスピリン負荷テスト、食物負荷試験など多数の特殊検査があります。また、治療としては花粉症やアレルギー性鼻炎に対するスギ、ダニに対する舌下免疫療法、またハチ毒によるアナフィラキシーの治療としてアレルギー免疫療法も多数行い、重症喘息や重症アトピー性皮膚炎に対しては正確な診断と治療の確認の上で、生物学的製剤による治療も行っています。さらに難治性喘息の非薬物治療として気管支熱形成術を西日本で最初に導入したことから、近県の多数の病院からの実施見学者を迎え、これまでに多くの治療実績を上げています。

アレルギー疾患に対する啓発活動

2018年度の活動内容は下表の通り実施しました。
アレルギー検査の実習は非常に好評で、南大阪エリアのアレルギー疾患の診断と治

日付	講座	参加人数	概要
2018年6月13日	第1回 医療従事者向け研修会	80名	アナフィラキシーとその対策、エピペンの使用方法について
2018年6月17日	第1回 市民公開講座	83名	喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎について
2019年2月11日	第2回 市民公開講座 — 大阪府共催 —	99名	花粉症、食物アレルギー、家庭での掃除の仕方について
2019年3月21日	第2回 医療従事者向け研修会	32名	皮内テストや吸入指導の実技指導、食物負荷テストとアナフィラキシー治療の実際について



第2回市民公開講座

療の向上のためにも毎年継続していく予定です。

また、各市町村の教育委員会や学校、園からの要請で、南大阪エリアを中心に毎年20件程度学校訪問を行って、食物アレルギーやスキンケアについての教育、講演を行っています。



膝手術支援ロボットを日本初導入 術後の膝関節機能の改善に期待

近畿大学病院整形外科では今春、膝に人工関節を埋め込む手術の際に支援をするロボット「NAVIO™」の最新機器を国内で初めて導入しました。膝の軟骨や骨が変形する病気やスポーツ外傷による後遺症などの治療では、傷ついた骨や軟骨を取り除き、金属製や樹脂製の人工関節に置き換える手術を行います。人工関節手術は高齢者を中心に国内で年間約9万例も実施されて

いるごく一般的な手術です。通常は手術をスムーズに進めるため、膝の曲げ伸ばし時に重要な役割を果たす前十字靭帯を切ることで多く、術後の膝の動きに違和感や痛みをきたすことがありました。

NAVIO™は膝を切開した後に赤外線を使い、骨の形状や関節の動きを感知。医師が決めた人工関節を挿入する位置や角度を的確に理解し、ドリルの動きを制御します。それにより必要な部分だけを正確に削り、靭帯を温存することができるようになりました。NAVIO™による手術を行った赤木将男主任教授は、「機器の反応と頭に描いた手術のイメージにずれがなく、骨を削る際のミスが起きない安心もあります」と話し、最新機器の手応えを実感。高精度で身体への負担をできるだけ少なくした手術の実現で、術後のリハビリ期間の短縮や早期退院、早期社会復帰を促進していきます。



TOPICS

近畿大学医学部CPC部が救命措置を競う大会で優勝！



写真前列左より
常松 南見(2年)、松本 悠佑(5年)、森 大樹(5年)、
嶋 和将(4年)、澤田 拓(4年)

2018年11月3日(土)に開催された「第4回 全国医学生BLS選手権大会」で、近畿大学医学部CPC部が総合優勝しました。この大会はCPR(心肺蘇生法)を含む一次救命措置(BLS)の知識・技術の向上を目的として、日本救急医学会学生・研修医部会設置運用特別委員会が毎年実施している大会です。近畿大学医学部CPC部は夏の地方大会予選を勝ち抜き、国際医療福祉大学東京赤坂キャンパス体育館で行われた決勝大会に進出。見事栄冠を手にした。若き医学生たちがCPR普及の担い手となり、将来の救急医療向上に貢献してくれることでしょう。みなさんもご期待ください。



減塩メニュー

鶏ごぼうご飯（米飯150g）／豆腐の揚げ出し煮
えびとキャベツのオーロラソース和え／フルーツポンチ

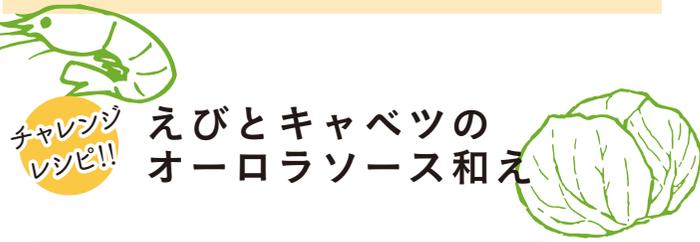
760kcal、たんぱく質29.0g、脂質25.8g、塩分2.7g

Point 鶏ごぼうご飯は混ぜて炊くだけなのでとても簡単です。やさしい味付けで素材本来の味が楽しめます。豆腐の揚げ出し煮は大根おろしをのせて食物繊維を摂取しましょう。



Theme
マヨネーズ

病院食は普通食を基本にして、減塩食や糖尿食など様々な食種に合わせて調整しています。
減塩食は1日塩分付加6g以下を基本にしており、マヨネーズはそのものに含まれる塩分が少なく、減塩につながるやさい食品です。マヨネーズを使った薄味でもおいしく食べられるポイント、ご家庭でも作れるレシピを紹介します。



118kcal、たんぱく質9.6g、脂質6.3g、塩分0.6g

オーロラソースとはフランスではトマトピューレにバターを加えたソースを指しますが、日本ではマヨネーズとケチャップを混ぜたものをオーロラソースと呼んでいます。まったりとしたコクと爽やかな酸味が塩分が少なくてもおいしく食べやすい料理です。



■ 材料

- | | | |
|--------------|---|--------------------|
| むきえび …… 30g | A | 塩 …… 0.2g |
| ゆでたまご …… 25g | | 白こしょう …… 0.1g |
| キャベツ …… 30g | | トマトケチャップ …… 大さじ1/2 |
| 胡瓜 …… 10g | | マヨネーズ …… 大さじ1/2 |
| 人参 …… 5g | | |

■ 作り方

- ①むきえび、キャベツは茹でて、ゆで卵は刻んでおく。
- ②キャベツは短冊、胡瓜は半月、人参は千切りにまたは食べやすい大きさに切る。
- ③Aを全て混ぜ、①と②とよく和える。

バリエーション カロリーオフや減塩のマヨネーズを使うことでよりカロリーも塩分も抑えることができます。



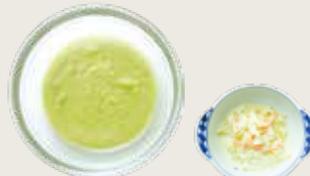
カレーマヨソース

65kcal、塩分0.3g (1人分)
(材料：カレー粉 お好みの量、マヨネーズ 大さじ1、牛乳 小さじ1)
じゃがいもやブロッコリーなどとも相性がよく、肉、魚にもよく合うためメインのおかずにもなります。牛乳でのばすことでマイルドな味わいになります。



ヨーグルトマヨソース

66kcal、塩分0.3g (1人分)
(材料：ヨーグルト10g、マヨネーズ大さじ1、胡椒少々)
ヨーグルトを混ぜることでカロリーダウンにもつながります。ブロッコリー、トマト、じゃがいもが爽やかな味によく合います。



わさびマヨソース

62kcal、塩分0.3g (1人分)
(材料：チューブわさび 1g、マヨネーズ 大さじ1)
わさびの香りで塩分を加えなくてもおいしく食べられます。小松菜、ほうれん草などの葉物の野菜と相性抜群です。



治験薬管理担当薬剤師

こんにちは
薬剤部です

患者さまの未来を
明るく照らす治療。



今回は、当院の縁の下の力持ちである臨床研究センター治験管理部門の薬剤師にスポットを当て、日々の仕事についてお話します。

みなさんは「治験（ちけん）」という言葉を知っていますか？ 治験とは、医薬品や医療機器の製造と販売に関して承認を得るために、有効性や安全性を人で調べる臨床試験のこと。新しい薬を待っている患者さまに1日でも早く届けるための大切なステップです。そして、近畿大学病院は全国で最も多くの治験を行っている施設の一つです。

厳格な基準が設けられている治験薬の管理を行うのは臨床研究センターの薬剤師たち。内服薬、注射薬、外用薬など多種多様な剤型の治験薬を管理し、使用する際は、製薬会社で作成した手順書を読み解きながら準備を進めます。注射薬抗がん剤は調製方法をわかりやすくまとめて調製を担当す

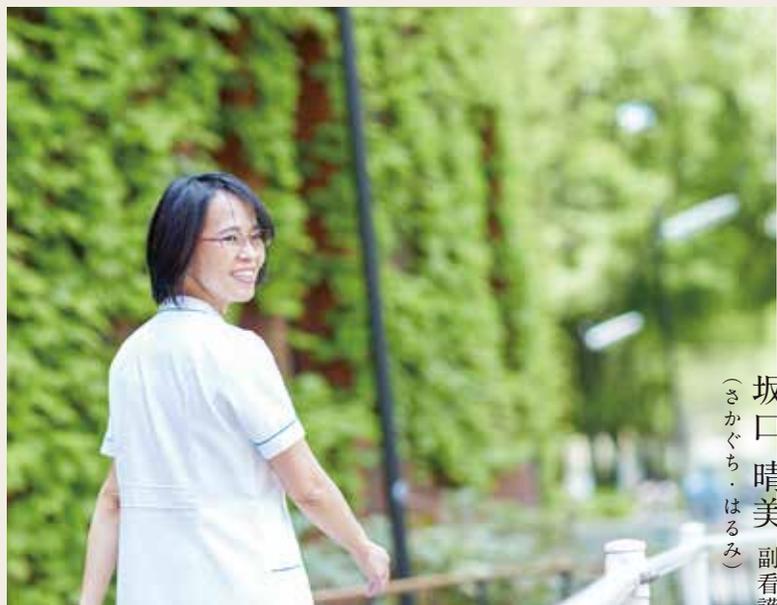
る薬剤師に依頼したり、新しい薬の管理手順書を作成して連携病院の薬剤師へ配布することもあり、高度な専門的知識を必要とします。業務の中で最も気を配るのが温度と湿度。室温で管理する薬でも15〜25℃に設定された保管庫で管理を行い、24時間365日計測可能な温度計で設定温度が正確に保たれていることを確認します。温度計は1年ごとに新しいものと交換するなど、細心の注意も怠りません。患者さまにはなかなか見えにくい仕事ですが、小さなミスが治験データに影響を及ぼすため、常に配慮しながら緊張感を持って取り組んでいます。

治験はまず医師から説明を受け、患者さまの同意のもとで実施されます。当院では、治験を希望する患者さまと医師との橋渡し役を臨床研究コーディネーターが担当し、薬剤師も参加。患者さまに寄り添い不安を軽減しながら、治験が円滑に進むようサポートしています。参加を決めた後でも取りやめることができますので、興味のある方は一度主治医にご相談ください。



臨床研究コーディネーター

患者支援センター



看護部
坂口 晴美 副看護長
(さかぐち・はるみ)

退院後の生活に
笑顔があふれる
ことを願って

近畿大病院の1カ月の入院患者数は約2000人。うち退院の支援が必要な方は約150人です。院内に設けられた患者支援センターは、患者さまたちの明日を支える相談窓口。医師、看護師、ソーシャルワーカーなど、総勢約60人の多職種が集まり、療養生活にまつわる様々な相談を受けています。同副看護長の坂口晴美さんは入院患者さまが退院する際、地域との橋渡し役を担う退院調整看護師として活躍しています。

「当院の場合、入院から退院までの日数は平均約11日。この短い期間にご本人やご家族と何度も面会や電話連絡などを重ね、退院後の療養生活についての思いをうかがいます。同時に、医師や病棟看護師、栄養士などから情報を収集し、病状を細かく把握。患者さまを取り巻く環境を理解し、退院に必要な支援を速やかに進めています」

退院後は自宅へ帰れる人ばかりではありません。退院支援を必要とされる患者さまのうち約5割が転院を余儀なくされます。坂口さんは安心して転院してもらえるよう、日ごろから地域の医療機関と密に接し、信頼関係を構築。また、介護施設や在宅介護事業所なども連携を取り、退院後のさまざまな療養パターンに対応できるよう努めています。

「患者さまによって状況が異なり、マニュアル通りにはいかないことも多々ありますが、どのようなケースにも柔軟に応じるのが私の役目。患者さまやご家族が最善の

退院や転院への不安は一人で抱え込まず、いつでも患者支援センターにご相談ください



方法を選べるように幅広い選択肢を用意したり情報を提供したいと思っています」

坂口さんがいつも心がけているのは、患者さまやご家族の話をじっくりと聞いて要望を引き出し、わかりやすく説明すること。

「特に転院の場合は気を落とされていることもあるので、元気に自宅に戻るためのステップですと前向きにお話しするようにしています」

また、困り事をいつでも気軽に相談してもらえようコミュニケーションを深め、話しかけられやすい雰囲気づくりにも努めています。多岐にわたる業務で多忙を極める坂口さんにとって、患者さまとの間に結ばれた絆がパワーの源。

「退院されてからも患者さまやご家族から電話でご相談を受けることがあります。困り事を相談できる窓口として、引き続き私を頼りにしてくださいと思っているのかなと思うと嬉しくなりますね」

穏やかな語り口と包み込むような笑顔が、今日も患者さまたちの心を癒しています。

手術患者さまの不安や痛みにできることを全力で。



麻酔科 周麻酔期看護師
美野 多佳志
(みの・たかし)



私は周麻酔期看護師として、全身麻酔で手術をする患者さまへ看護を提供しています。手術中は麻酔科医の監督・指示の下、麻酔管理をサポート。手術前と手術後は患者さまとコミュニケーションを図り不安や痛みを耳を傾け、必要な情報を伝えたり処置をしたりと、心身の苦痛の緩和に努めています。

周麻酔期看護師は全国的にもまだ少なく、当院では私1人。看護師として麻酔に関する知識をより深めたいと思ったことが、新たな道を志すきっかけでした。手術室看護師として築いた9年のキャリアを経て、2年間休職。看護の中枢と言われる聖路加国際大学院で、専門的な知識とスキルを身につけました。手術室看護師時代は手術室でしか患者さまと関われないことがジレンマでしたが、今はベッドサイドで寄り添えることが喜び。学びを深めたことで、痛みに対する訴えにも麻酔科医と看護師それぞれの視点からフォローできるようになり、ケアの幅が広がったと感じています。医療技術や機器、薬が飛躍的に進歩し、昔と比べると全身麻酔の手術は安全に受けられるようになりました。今後も外科チームが一丸となり、安心・安全な手術に全力で取り組んでいきたいと思っています。

周麻酔期看護師の役割

手術後

手術前と同じく、コミュニケーションを図りながら患者さまの不安を軽減。術後の痛みが強い人には、痛み止め薬の変更や追加を担当医や病棟看護師に相談することもあります。

手術中

麻酔科医の監督・指示の下、麻酔薬を投与したり挿管をを行ったりと、手術室内で麻酔科医の業務をサポート。手術が安全かつスムーズに進むよう心がけます。

手術前

麻酔科医に代わりベッドサイドで体調変化を観察し、看護師の視点で患者さまの不安や疑問をヒアリング。情報は麻酔科医と共有しながら手術に向けて準備をします。

イベントスケジュール

ともに生きる会

無料
予約不要

- 2019
6.20(木) 胃がん死ゼロ 大腸がん死ゼロを目指して
講師 辻直子 他(消化器内科 医師)
消化器がんに対する最新免疫療法
8.8(木) 講師 川上尚人(腫瘍内科 医師)
がんの個別化医療
10.17(木) 講師 武田真幸(腫瘍内科 医師)

14:00~15:00 PET棟3階 大会議室

近畿大学病院 患者相談課
お問合わせ Tel 072-366-0221(内線3803)

リボンの会

無料
予約不要

- 2019
7.6(土) ヨガ
9.26(木) がんと暮らし
11.28(木) がんの治療と暮らしを支えていくためにできること

14:00~14:45 PET棟3階 大会議室

近畿大学病院 がん相談支援センター
お問合わせ Tel 072-366-7096(がん相談支援センター直通)



患者サロン「なごみ」

¥100
予約不要

- 2019
6.20(木) アプリコット 9.26(木) PET小
7.6(土) PET小 10.17(木) PET小
8.8(木) PET小 11.28(木) PET小

14:00~15:00

近畿大学病院 がん相談支援センター
お問合わせ Tel 072-366-7096(がん相談支援センター直通)

肝臓病教室

無料
予約不要

- 2019
9.13(金) 肝臓のエコー診断
講師 青木智子(消化器内科 医師)
肝臓疾患の看護について
日常生活での注意点
講師 玉川郁子(看護師)

15:00~16:00 PET棟3階 大会議室

近畿大学病院 患者相談課
お問合わせ Tel 072-366-0221(内線3803)

第32回 市民公開講座

無料
予約不要

- 2019
9.28(土) みんなの目の健康

白内障や緑内障、小児眼科まで専門医がわかりやすく解説します。

14:00~16:00(13:00受付スタート)

近畿大学医学部大講堂
お問合わせ 医学部・病院事務局 総務広報課
Tel 072-366-0221(内線2156)

がんとお金の関係

無料
予約不要

- 2019
6.19(水) 14:00~15:00 障害年金について
7.22(月) 11:00~12:00 介護保険制度について
9.27(金) 14:00~15:00 がん治療と仕事の両立支援について
10.21(月) 11:00~12:00 高額療養費制度ってなんだろう？
11.20(水) 14:00~15:00 傷病手当金ってなんだろう？

近畿大学病院 がん相談支援センター
お問合わせ Tel 072-366-7096(がん相談支援センター直通)

第4回 南大阪メディカルラリー

無料
予約不要

平成から令和へ 君は見たか、命をつなぐ絆を！
緊迫感漂う現場での隊員の訓練をぜひ間近でご覧ください。

メディカルラリーとは災害現場を模倣的につくり、医師や看護師、救命士などで構成された7名組の医療チームが、制限時間内でどれだけの確かな診断と処置を行うことができるかを競うものです。

2019
7.14(日) 12:00~17:00(競技時間)
近畿大学病院

南大阪メディカルラリー実行委員会
お問合わせ m-rally@med.kindai.ac.jp



Dr.ONOE's Medical Antique

はしか絵

明治時代まで麻疹はたくさんの子供の命をうばい、「命定め」と言われるほど非常に怖い病気でした。江戸時代の文久2年に江戸で大流行したときには、一説によると大人も含め約23万人の方が命をおとされたと推定されています。この年、麻疹にかからないためにはどうしたらよいか、麻疹にかかったときの養生法はなにか、などが書かれた浮世絵版画が大量に作られました。「はしか絵」と

呼ばれています。食べてよいものとして「かんびょう、干し大根、ゆり根など」、食べてはいけないものとして「鳥類一切、卵、豆腐、こんにやくなど」と書かれており、ホンマかいなと思ったりします。また麻疹にかかった後の75日間してはいけないこととして「入浴、灸、酒など」と書いてあるものもあり、麻疹が流行すると銭湯や酒屋が閑古鳥になっていたそうです。



〈参考文献〉『病が語る日本史』 著者：酒井シヅ
『はやり病の錦絵』 くすり博物館所蔵

文/心臓血管外科 尾上雅彦 准教授(おのえ・まさひこ)

地域医療特集



病院からのメッセージ

当院は、堺市東区の地域医療を担う病院として、今年で40周年を迎えます。開院当初より、地域密着型の医療をめざし、地域包括ケア・回復期医療を行ってまいりました。近畿大学病院には、急性期患者さまを受入れて頂く一方、脳疾患、整形疾患等のリハビリ目的の患者さまを多数紹介頂いております。近畿大学病院との更なる連携により、南河内医療圏の患者さまに安心していただける病院を目指してまいります。

1979年に開設された日野診療所を前身に1981年日野病院として開設されて以来、『生命の花を咲かせます 生きる力を支えます 力を生かして支えます』をグループ理念とし、高度急性期・急性期病院での治療が終わられた方が、日常生活に復帰するために、リハビリテーションを中心としたチーム医療を提供されておられます。

2016年12月には104床から199床に増築オープンを行い、

『24時間・365日』初期診療から介護までの総合的な診療で、地域の皆さんに良質な医療の提供』を合言葉として、外来・入院診療だけでなく訪問・通所リハビリテーションまで展開され、在宅復帰を支えるため、また地域にしっかりと立脚した病院であり続けることを念頭に多種の職員が一丸となってチーム医療を進められております。

社会医療法人 頌徳会 日野病院 〒599-8123 大阪府堺市東区北野田626番地 TEL 072-235-0090



院長からのメッセージ

2023年には近大病院と医学部が泉ヶ丘に移転の予定です。これからもより一層近大病院との連携を強固にし、多くの患者さまに安心して頂けるような透析医療を提供していく所存ですので、引き続きご指導を賜りますようお願い申し上げます。

卒業生の今

医療法人計行会 高橋計行クリニック

近畿大学医学部3期生の高橋計行です。昭和57年に卒業後、旧第三内科(堀内篤教授)に入局させて頂いた後、退職するまでの11年間は今田聰雄教授に師事し腎臓病関連の仕事をしておりました。近大退職後はいくつかの民間病院で血液透析にかかわる仕事をしておりましたが、平成23年に堺市の南区で血液透析・腎臓内科を標榜して開業致しました。わたくしどものクリニックは、より多くの患者さまに「その人のライフスタイルにあった、その人らしい



[3期卒業生]
高橋計行先生
(たかはし・かずゆき)

透析」を享受できるよう血液透析、腹膜透析そして自宅で血液透析を行う在宅血液透析といった腎不全に対するあらゆる治療法に対応できるクリニックとして日々診療をしております。

医療法人計行会 高橋計行クリニック 〒590-0153 大阪府堺市南区大庭寺778-9 TEL 072-284-3232



近畿大学医学部・病院 開設50周年事業募金

近畿大学医学部・病院の開設50周年事業として、募金を開設しております。
みなさまの趣旨へのご理解とご支援を賜りましたら幸いです。

目的

本法人の建学の精神を踏まえて、近畿大学医学部の教育・研究・診療を飛躍的に発展させるとともに、これからの医学・医療を担う人材を育成することで日本の医療の発展と地域医療の充実に貢献する。

概要

教育研究への寄付

最先端の研究活動を支え、未来の医療を切り開く。

医療施設設備への寄付

人に愛され信頼され尊敬される医療人を育成する根幹を支える医療施設の充実を。

学生支援への寄付

医療人としての人格形成に有意義な学生生活を支える。

施設設備への寄付

未来志向の医学教育のさらなる発展に向けて。

大学主催行事への寄付

在学生と卒業生を結び絆を育む。医学教育を支えてくれた人々への感謝。



寄付金額

個人：一口 5,000円

※寄付金には税制上の優遇措置が受けられます。

お問合せ資料請求先

近畿大学
医学部・病院事務局 総務広報課 募金係
〒589-8511
大阪府大阪狭山市大野東377-2
TEL:072-366-0319/FAX:072-365-8300
URL:https://www.kindai.ac.jp/medicine/about/facility/50th-anniv/



近大に関わる様々な事業が
わたしたちのビジネスフィールドです



メディカルサポート事業／各種販売事業等／
レストラン・コンビニエンスストア等の事業／
旅行関連事業／保険代理店事業／
建設関連事業／施設管理事業／
自動販売機管理事業／業務委託事業／
印刷・出版事業／

お問い合わせ 受付時間 9:00~18:00(日・祝休)
9:00~13:00(土)

072-365-7863
http://kindai-a.co.jp

■本社
大阪府大阪狭山市大野台1丁目31番33号
■東大阪営業所(近畿大学 東大阪キャンパス内)
大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号 近畿大学31号館1階

SNS最新情報配信中!

Twitter Instagram Facebook



患者支援センター

患者さま・ご家族・医療機関からのご相談やご依頼をお引き受け致します。退院後の不安、セカンドオピニオンや福祉相談、かかりつけ医の紹介など、心配ごとやお困りごとをお気軽にご相談ください。



受付時間 月～金 9:00～17:00
土 9:00～12:45

お問合わせ Tel 072-366-0221(代表)

緩和ケアセンター

がんをはじめ、重い病を抱える患者さまやそのご家族の身体、心などのさまざまなつらさをやわらげ、安心して暮らすことができるように診断時から支えていくのが「緩和ケア」です。つらさや不安を抱え込まず、専門の医師や看護師にお気軽にご相談ください。



受付時間 月～金 9:00～17:00

お問合わせ Tel 072-366-0221(内線3878)

肝疾患相談支援センター

肝疾患相談支援センターでは肝がん、肝硬変、肝炎など、病気の種類に関係なく、肝臓に関するさまざまなご相談に面談とお電話で対応しています。また、治療や検査についてだけでなく、経済的な支援制度に関するお問い合わせいただけます。



受付時間 月～金 9:00～17:00

お問合わせ Tel 072-366-0221(内線3803)

各相談窓口のご紹介

病気のこと、治療のこと、暮らしのこと。
当院ではさまざまな相談窓口をご用意して、患者さまのお悩みや疑問、相談にお応えしています。

がん相談支援センター

がん相談支援センターは国立がん研究センターの研修を修了した相談員が、がんに関するご質問やご相談にお答えしています。がんの診断や治療についてもっと知りたいとき、不安でたまらないときに一緒に考え、情報を探お手伝いをしています。



受付時間 月～金 9:00～16:30

お問合わせ Tel 072-366-7096(直通)

栄養相談室

糖尿病や高血圧、心疾患、腎臓病に対する食事療法のほか、胃や大腸の手術後の食事の進め方、嚥下機能低下時の工夫など、「食」と「栄養」に関するご相談にお答えしています。化学療法中で口内炎や吐気で食べられないなどのお悩みもお聞かせください。



受付時間 月～金 9:00～15:00
土 9:00～12:00

※まずは担当医にご相談ください。

「脳PETもの忘れドック」 検診をスタート

認知症の早期発見を目的とした
「脳PETもの忘れドック」を受診してみませんか。

脳FDG-PET/CT検査・MRI検査・血液検査を
セットにした検診を2018年9月1日より開始。

がん同様に認知症も早期診断・受診が重要です。
認知症の中には、正常圧水頭症など、外科的な処置で治療
可能なものもあります。
早期の受診により、診断の難しい初期の段階から専門家との
信頼関係を築く事が大切になります。

お問い合わせ 高度先端総合医療センター (PET分子イメージング部) 受付
TEL 072-366-0221 (内線 2604/2605)
受付時間 [月～金] 9:00～17:00 [土] 9:00～12:45

※いずれも自由診療となります。

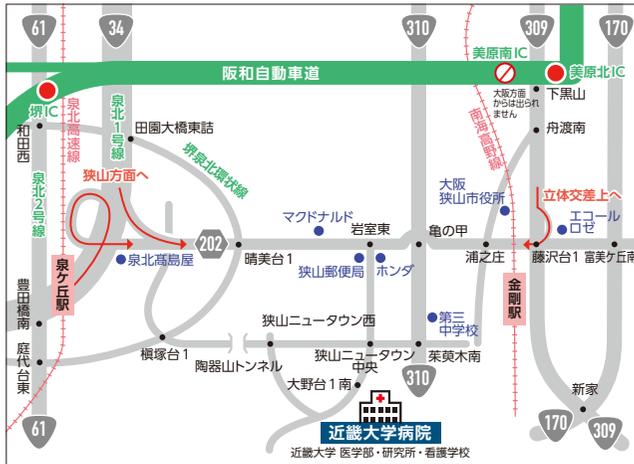
「PET/CTがん検診」 最先端のがん早期診断システム

「全身のがん検診を受けてみよう」と思ったら…

最新のPET/CT装置 Discovery710を導入

PET/CT装置は、PET検査とCT検査の良いところを
組み合わせることで、より診断情報の多い画像を得ることが
できます。精度が高く、たった一度の検査で全身を見る事が
可能。さらに短時間で終わり、痛みや不快感がないのが大
きなメリットです。

アクセス



電車・バスでお越しの場合



患者さま用駐車場ご利用案内

当日受診の患者さま

入場より3時間まで **100円** …… 4時間
以降60分 **100円**
入場より4時間まで **300円**

当日1日最大料金
1,000円

お見舞いの方・一般の方

入場より1時間まで **300円** …… 以降60分
200円

最大料金適用日時 平日・土 14:00～24:00
日・祝 13:00～24:00

入場より最初の30分無料

当日受診の患者さまは、駐車券を院内へお持ちいただき、2階会計窓口で割引処理を行ってください。精算は屋外(病院棟1階出入口付近)の事前精算機をご利用くださいますよう、お願い申し上げます。

各診療科のご案内

- 3F** 産婦人科、小児科、眼科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、疼痛制御センター(麻酔科)、形成外科、歯科口腔外科、東洋医学診療所
- 2F** 循環器内科、内分泌・代謝・糖尿病内科、消化器内科、血液・膠原病内科、腎臓内科、脳神経内科、腫瘍内科、呼吸器・アレルギー内科、メンタルヘルス科、外科(上部消化管、下部消化管、肝胆膵)、外科(肺)、小児(乳腺内分泌)、外科(小児)、脳神経外科、心臓血管外科、心療内科、漢方診療科、緩和ケア科
- 1F** 整形外科、放射線治療科、放射線診断科、リハビリテーション科

外来受付時間

平日	土曜	休診日
予約外又は紹介状をお持ちでない患者さま 8時30分～11時30分	8時30分～11時00分	日曜日・祝日
紹介状をお持ちの患者さま 8時30分～14時00分		創立記念日 (11月5日) 年末年始 (12月29日～1月3日)

- ※ 当院での治療等を必要とされる場合、紹介医からの紹介状が原則となっておりますので、当院宛の診療情報提供書(紹介状)を持参いただきますようお願いいたします。
- ※ 初診時に紹介状をお持ちでない方には、保険外併用療養費として10,000円(税別)をご負担いただきます。
- ※ 診療科によっては、完全予約制や休診日もございますので、詳しくは各診療科にお問い合わせください。

